

大学生と児童「放課後サッカー」

県サッカー協会などによる「放課後サッカー教室」が二十五日、知多市旭北小学校で開講した。四～六年生二十人が、夏休みなど休校中以外の毎週金曜日に、学生に教えてもらいながらサッカーを楽しむ。（福本英司）



開講式で徳田専務理事の話聞く子どもたち―いずれも知多市旭北小で

知多市・協会・愛院大連携 部活廃止で体力低下 防止へ



サッカーを楽しむ子どもたち

県サッカー協会と日本サッカー協会、愛知学院大、知多市の四者協働の教室。学校の課外活動が教員の働き方改革の中で廃止になる中、県サッカー協会が整備するフットボールセンターがある知多市で、身近にスポーツに触れ合ってもらおうと、開講することになった。スポーツ離れや体力の低下などの課題解決にしたいとの狙いもある。県サッカー協会としても初の事業となる。

愛知学院大の学生で、サッカーなどスポーツの指導者や学校の教員を志望し、指導者のライセンスのある学生がコーチを務める。

初日の二十五日は、ミニゲームやドリブルなどを楽しんだ。六年の竹内大翔君や四年の青木優汰君は「市内のクラブチームに通っているけど、もっと上手になりたいと思って参加した」と口をそろえて、意気込みを語った。

県サッカー協会の徳田専務理事は「学校の部活動が廃止になる中、子どもたちの生活圏内で気軽にスポーツを楽しんでもらいたい。楽しくスポーツを行える環境を整えていきたい」と話した。

市内の他の小学校でも開講を目指し、芝生で整備される同市のフットボールセンターで試合することを検討している。